

# 平成23年度 武蔵野市立第四小学校 学校経営計画

校長 佐藤 幹夫

## 1 目指す学校

本校は市内4番目の小学校として昭和16年に開校し、今年度は創立70周年を迎える。開校以来地域に信頼される教育活動を展開し、優秀な人材を輩出してきた伝統ある学校である。多くの卒業生が今も学区に住み、本校に愛着を感じて協力し、本校の発展を支えてきてくれた。しかし、時代とともに子供を取り巻く社会環境が変わり、子供や保護者の意識も変わってきた。そのため、この伝統を守り、さらに本校を発展させるためには、これまで以上に日々の教育活動を充実させ、子供の自尊感情と学力や規範意識を高めることのできる学校づくりを進める必要がある。

私は、信頼され期待される笑顔あふれる学校づくりを進めることで、本校をさらに発展させたい。まずは、子供たちが安心して学校に通うことができ、楽しく生活しながら基礎・基本の学習を確実に定着させることができるようにする。そして、子供たちが楽しく生活しながら意欲的に学んでいる姿を積極的に周知することで、保護者・地域から信頼される学校をつくる。

さらに自ら学び、自ら考える力や豊かな人間性を育み、保護者・地域と連携した教育を進めることで、期待される学校に高めていきたい。その結果としての、いつも子供たちを始め保護者、地域、教職員の笑顔があふれる学校をつくっていききたい。

- ①信頼される学校……誰もが安心して過ごせ、学習の基礎基本をしっかり身に付け、学んだことを活用できる学校。
- ②期待される学校……きめ細かい学習・生活指導により、子供が確かな学力と豊かな心を身に付けられる学校。
- ③笑顔あふれる学校…子供たち一人一人が個性や能力を十分伸ばし、どの子も自分のすばらしさを実感できる学校。

## 2 中期的目標と方策

### (1) 確かな学力をつける学習指導

- ①ICT機器を活用した、楽しくわかりやすい授業を行うことで学習意欲を高め、基礎基本の確実な定着を図る。
- ②体験的な学習や問題解決的な学習を充実させることにより、思考力、判断力、表現力などを育成する。
- ③言語能力が全ての学習の基礎であることを考え、全教科領域において言語活動を重視した指導を推進する。
- ④一人一人の個性と能力に応じた指導の充実を図り、成就感・充実感を体得させ、学習意欲を向上させるとともに、家庭と連携し学習習慣の確立を図る。
- ⑤子供理解に基づき、授業改善プランなどを活用して、計画的に授業を改善する。

## (2) 一人一人を大切に生活指導

- ① 教員相互の共通理解を図り、看護当番を中心に学校全体での指導の徹底を図る。
- ② 一人一人に自尊感情をもたせる学級・学年・専科経営に努める。
- ③ いじめを絶対に許さないという指導を徹底させる。
- ④ 係や当番活動に自分から進んで取り組み、責任をもってやり遂げるように育てる。

## (3) 思いやりのある子供の育成

- ① 学校や社会のルールを守るための規範意識を高めさせる。
- ② 思いやりのある言語環境の整備に努める。
- ③ 道徳の時間の充実を図る。また、道徳授業地区公開講座を通し、保護者・地域に道徳の大切さを発信し、連携して子供の道徳的実践力を高める。
- ④ きょうだい学級活動などで異学年交流を図り、年下の子供への思いやりの心を育む。

## (4) 安全指導の徹底

- ① 自他の生命を大切にし、日常の安全について正しく理解し、いつでもどこでも冷静に的確な行動がとれるようにする。
- ② 避難訓練、安全指導のねらいの達成を目指すとともに、セーフティー教室などを活用して不審者侵入などに対する安全指導を徹底する。

## (5) 心と体の健康教育

- ① 丈夫な体をつくり、明るい学校生活を送れるよう指導の工夫をする。
- ② 給食指導を充実させ、望ましい食習慣を形成させる。
- ③ 子供の心や保護者の悩みを受け止める健康・教育相談を充実させる。
- ④ 特別支援委員会の活動を充実させ、配慮の必要な子供に適切な対応を行う。

## (6) 特色ある教育活動

- ① 市の教育課題開発校として I C T 機器を積極的に活用した授業改善に取り組み、子供の学習意欲を高めるとともに、学力の向上を図る。
- ② 四小の森、ビオトープなど身近な自然環境を生かした学習を展開するとともに、リサイクルや省エネルギーなどの環境保全のための教育を推進する。
- ③ 手話朝会や吉祥寺ナーシングホームとの交流を充実させるとともに、障がいのある人たちへの理解を深め、福祉教育を充実させる。
- ④ 和室や地域人材を活用し、箏や武蔵野ばやしなど、日本に古くから伝わる伝統文化に関する教育を充実させる。

## (7) 家庭・地域との連携

- ① 教育方針や具体的な教育活動を積極的に公開する。
- ② 学校の関係者評価の充実を図る。
- ③ ゲストティーチャーを使った授業を指導計画に位置づけ地域人材の一層の活用を図る。

### 3 今年度の重点目標と具体的方策

#### (1) 確かな学力をつける学習指導

- ① ICT機器を活用した楽しくわかりやすい授業を行い、学習意欲を高める。また、全学年で研究授業を行うとともに、ICT機器の活用を年間指導計画に位置づけ日常的に実践する。
- ②理科専科教員や学習指導員も活用し、理科や算数を中心に問題解決的な学習の充実を図る。また、総合や社会を中心に体験的な学習の充実を図る、そのことにより、思考力、判断力、表現力などを育成する。
- ③国語を中心に全教科において自分の意見を論理的に話したり、朝の会でのスピーチ活動を充実させたりすることで、全ての子供の言語能力を伸ばす。
- ④一人一人の能力に応じた漢字や計算の繰り返し学習などの充実を図り、成就感、達成感を体得させながら、基礎基本の確実な定着を図る。また家庭学習の意義や方法について保護者に知らせ、子供が継続的に家庭学習を行なうようにさせる。
- ⑤授業改善プランなどを活用して、子供の実態に合わせた授業改善を図るとともに、計画的な授業と評価を積み重ねて学力の向上を図る。
- ⑥放課後の時間を使った各学級での補習や夏休みの補習教室、学習支援教室の充実を図りできるだけ学習の遅れがちな児童を減らしていく。

#### (2) 一人一人を大切にできる生活指導

- ①全校共通した生活ルールのもとに、看護当番が中心になって子供たちの生活をよく見守り、安全に関する指導を徹底する。また、毎週末に生活指導の会を開き、全教員が子供の情報交換を行い共通理解を深める。
- ②一人一人のよさを認めほめて伸ばすことを中心に、各学級・学年・専科で指導を行う。そのことにより、どの子供も自尊感情をもてるようにする。
- ③教員一人一人が、いじめは絶対に許さないという信念をもち、発達段階に応じた適切な指導を行うことで、いじめの根絶を図る。
- ④学級での係や当番活動、学校全体での委員会活動など任された仕事に自分から進んで取り組む子供を賞賛し、どの子も責任をもって仕事をやり遂げられるように育成する。

#### (3) 思いやりのある子どもの育成

- ①挨拶と正しい言葉遣いができるようにし、友達や地域の方に迷惑をかけない行動ができるように、あらゆる機会を通じて学校全体で指導する。
- ②心ない言葉が子どもの心を大きく傷つけることを教員自身がよく自覚し、日々の生活の中で相手の気持ちを考えた思いやりのある言葉を使えるよう、教室の言語環境を整える。
- ③計画的に指導を展開し、自分の良さに気づかせ、自分を尊重するとともに他人を尊重する心を育てるように努める。また、道徳授業地区公開講座などを活用して、道徳教育の価値を保護者や地域と共有し、協同して子どもの道徳力を高める。
- ④異学年交流を年間3回実施する。また、地域班活動や児童集会などの異学年交流の場を通して、年下の子どもへの思いやりの心を育む。

#### (4) 安全指導の徹底

- ①健康安全指導を毎月実施して、自分と友達の命の大切さを十分理解させる。また、日常の健康保持や安全な生活ができるように意識を高め、いつでも安全を考慮した冷静な行動ができるように指導する。
- ②毎月の避難訓練を真剣に行い、地震や火災の時などに適切に避難できるようにする。また、セーフティー教室や不審者対応避難訓練等を通して、防犯意識を高める。

#### (5) 心と体の健康教育

- ①日常から外遊びを奨励するとともに、学年ごとに具体的な体力向上の取り組みを工夫する。また、持久走旬間や縄跳び旬間を設定して、運動する習慣を身に付けさせる。
- ②学級指導などでの食育を充実させ、バランスよく栄養をとることの大切さを理解させ、給食を残さず感謝の気持ちをもって食べるようにさせる。
- ③学級での生活や授業などを通じて子どもが抱える問題の早期発見に努め、教員間で情報交換を十分行い、派遣相談員や専門諸機関とも連携をとり、早期解決を図る。
- ④特別支援委員会が個別指導計画を作成し、派遣相談員や専門家スタッフと連携して、それぞれの子どものニーズに合わせた適切な支援を行う。

#### (6) 特色ある教育活動

- ①分科会ごとに分かれて効果的にICTを活用した授業を研究し、学習意欲を高めるとともに学力の向上を図る。また、年間6回の研究授業と研究発表会を行い、研究の成果を市内の各学校に公開する。
- ②総合的な学習の時間や理科の指導計画に、四小の森やビオトープを活用した授業を位置付け、身近な自然を生かした環境学習を展開する。また、省エネルギーや環境保全の大切さを理解させ、持続可能な社会の実現をめざす指導を推進する。
- ③手話朝会で学んだことをもとに目の不自由な人の問題を考えたり、ナーシングホームのお年寄りとの交流をさらに充実させたりすることで、障がいのある人たちへの理解を深め、適切な行動ができる子供に育てる。
- ④総合的な学習の時間だけでなく、社会や音楽など様々な教科で和室や地域人材を活用して、箏や武蔵野ばやしなど日本の伝統文化に関わる教育を充実させる。

#### (7) 家庭・地域との連携

- ①ホームページや保護者会、学校便り等を活用して、学校の教育方針を積極的に発信する。また、ホームページや学級便りなどを工夫して、学校で楽しく生活し、しっかり学んでいる子供の姿をなるべく多く保護者や地域に伝える。
- ②保護者や開かれた学校づくり協議会委員に、1学期のうちから評価を意識しながら本校の教育活動を見ていただく。また、結果については早めに分析・検討し、来年度の教育活動の具体的な改善に生かしていく。
- ③開かれた学校づくり協議会委員等の協力を得て、地域人材をできるだけ多く授業に活用するとともに地域人材リストを作成し、より多くの教員が計画的に活用できるようにする。

